

開国① — 列強の進出と幕府の対応

A 列強のアジア進出

① 列強の情勢

イギリス … 市民革命、産業革命、**アヘン戦争**（清国は香港を割譲）

アメリカ … ゴールドラッシュ（カリフォルニアで金鉱発見）、捕鯨業、**中国貿易**

ロシア、フランス

⇒ 国外市場や植民地を求めてアジア進出 ～ 対日接近

② 列強の来航と幕府の対応

1825 年 **異国船打払令**

1842 年 **天保の薪水給与令**（水野忠邦）

- **異国船打払令の緩和**（【背景】**アヘン戦争**を意識）

1844 年 **オランダ国王（ウィレム 2 世）の開国勧告**

- 将軍**徳川家慶**への親書 → **幕府は開国要求を拒否**

1846 年 **ビッドル**（アメリカ東インド艦隊司令長官）、浦賀に来航

- 捕鯨船の寄港地として通商を要求 → 幕府は拒否

開国② — ペリー来航



B 開国

① ペリー来航（1853 年＝**嘉永 6 年**） アメリカ東インド艦隊司令長官

1853 年 **ペリー**が**浦賀**へ来航（サスケハナ号などの軍艦〔**黒船**〕4 隻）

● **フィルモア**大統領の国書を提出し、開国を要求

→ 老中**阿部正弘**は国書を受理

プチャーチン（ロシア使節）、**長崎**に来航

→ 幕府は開国要求を拒否

開国③ — 日米和親条約

1854 年 ペリー、江戸湾に再来航（軍艦 7 隻）

⇒ **日米和親条約**締結

【 日米和親条約（神奈川条約） 】

- 1) 薪水、食糧の給与 難破船、乗組員の救助
- 2) **下田、箱館**の 2 港を開港（**下田に領事駐在**）
- 3) 片務的**最恵国待遇**を認める

〔内容〕 他国と結んだ条約の中で日本がアメリカよりも有利な条件を認めたときは自動的にアメリカにもその条件が認められる

* 『**日本遠征記**』 … ペリーが帰国後に日本での体験などを著したもの。

開国④ — 日露和親条約

② イギリス、ロシア、オランダとも和親条約締結

1854 年 **日露和親条約** (下田で締結)

【 日露和親条約 】 国境の確定

- 1) **下田、箱館、長崎**の開港
- 2) **択捉島**以南を日本領、^{ウルップ}**得撫島**以北をロシア領に
- 3) **樺太（サハリン）は両国人雑居の地**
- 4) **片務的最恵国待遇、双務的領事裁判権**

開国⑤ — 阿部正弘の安政の改革

C 阿部正弘の改革 ～ 安政の改革

- ◎ 幕政の責任者として諸大名や幕臣にも諮問を行う
- ◎ 人材の登用

徳川齊昭（前水戸藩主／海防参与）、**松平慶永**（越前）、**島津齊彬**（薩摩）



海防策	海防掛 の設置（1845）
大船建造の禁解禁 （1853 年）	<p>武家諸法度の大船建造の禁を解禁</p> <p>→ 諸藩に洋式軍艦の大船建造を奨励</p>
軍事力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 長崎に海軍伝習所を設置（1855） ～ オランダからの技術導入 ● 講武所を江戸築地に発足（1856： 高島秋帆登用） ● 江戸湾に台場（砲台 6 基）、伊豆韮山に反射炉

開国⑥ — ハリスの来日と通商条約の締結

D 通商条約の締結

① ハリスの来日と京都工作

1856 年 アメリカ初代総領事**ハリス**、下田に到着 → 通商条約締結を要求
～ **アロー号事件**（第2次アヘン戦争）による英仏の脅威を説く

1858 年 ^{まさよし}**堀田正睦**、^{としあきら}**川路聖謨**、^{ただなり}**岩瀬忠震**ら、**条約勅許を求めて上洛**
→ 攘夷派の**孝明天皇**の勅許は得られず（京都工作の失敗）

開国⑦ — 日米修好通商条約

② 日米修好通商条約の締結 [孝明天皇の勅許無し]

1858 年 日米修好通商条約の締結 (大老井伊直弼の違勅調印)

【 日米修好通商条約 】 不平等条約

- 1) **神奈川（横浜）、長崎、新潟、兵庫（神戸）**の開港と**江戸・大坂の開市**
 - * 下田（横浜開港によって閉鎖）
 - * 開港の遅れ … 神戸（1867年開港）、新潟（1868年開港）
- 2) 通商は**自由貿易**とする
- 3) 開港場に外国人**居留地**を設定
- 4) 居留地内での**領事裁判権** ～ **治外法権の容認**
- 5) **協定関税**（日本に関税の税率についての決定権はなく、相互で決める）
～ **関税自主権無し**

→ **オランダ、ロシア、イギリス、フランス**とも同条約を締結
(**安政の五カ国条約**)

③ 条約の批准 ～ 万延遣米使節

1860 年 外国奉行^{しんみまさおき}新見正興らを欧米使節として派遣

→ 幕府木造軍艦咸臨丸（艦長：勝海舟〔義邦〕）が太平洋横断に成功

＊ 福沢諭吉らも随行（通訳：中浜万次郎）



開港とその影響① — 貿易の開始

A 貿易の開始（1859 年～）

- **横浜、長崎、箱館**での居留地貿易（最大の取引港は**横浜港**）
- 最大の取引国は**イギリス**（**アメリカは南北戦争により撤退**）
- 外国商人と日本商人との間で**銀貨**を用いて取引した

【 輸出品 】 **生糸 茶** 蚕卵紙 海産物 など

【 輸入品 】 **毛織物 綿織物** 武器 艦船 綿糸

⇒ **輸出超過**

開港とその影響② — 流通機構の変化（五品江戸廻送令）

① 流通機構の変化

在郷商人　：　商品を開港場に直送

→ **江戸の間屋に打撃（物価高騰）**

1860 年

五品江戸廻送令

重要輸出 5 品（**生糸、雑穀、水油、蠟、呉服**）の開港場直送を禁止

→ 在郷商人や外国からの批判によりあまり効果なし

② 生産構造の変化

製糸業、製茶業の輸出急増 → マニユファクチュア経営の発達

⇔ 安価な綿織物の大量輸入による国内綿織物業の圧迫

③ 輸出超過による国内の物資欠乏 → 物価高騰 (2.5～7 倍)

開港とその影響③ — 金銀比価問題と攘夷論の高まり

④ 金銀比価問題

< 日本 > 金 : 銀 = 1 : 5

< 外国 > 金 : 銀 = 1 : **15**

⇒ 海外への金の大量流出 (**10万両**以上)

1860年 **万延小判**の鑄造 ～ 江戸時代最後の貨幣改鑄

→ 貨幣の品質が落ち、実質価値も下がったので物価上昇

＊ 社会の混乱 — **安政の大地震** (1855年) … 数千人以上の死者

＊ 貿易による生活圧迫 → 貿易に対する反感 ⇒ **攘夷運動に発展**

C 攘夷運動

× 攘夷論 … 外国勢力を武力で撃退する

ヒュースケン暗殺 (1860 年)	● ハリスの通訳であったオランダ人ヒュースケンが 公使館に帰る途中、江戸で暗殺された
東禅寺事件 (1861 年)	● 水戸脱藩士 14 名が品川東禅寺のイギリス仮公使館を襲撃 → 公使館は品川御殿山に移転
生麦事件 (1862 年)	● 島津久光の行列を横切ったイギリス人を殺傷 1863 年 薩英戦争 … イギリス軍艦が鹿児島沖に来航し砲撃 → 薩摩藩は攘夷の不可能を認識し、イギリスに接近
イギリス公使館 焼打ち事件 (1862 年)	● 高杉晋作、 <small>くさかげんずい</small> 久坂玄瑞ら約 10 名が品川御殿山に建設中の イギリス公使館を襲撃

政局の転換① — 将軍継嗣問題

A 将軍継嗣問題

① 幕府内部の対立

1853 年 徳川家慶没 → **徳川家定**、13 代将軍に就任

1858 年 徳川家定没 ⇒ 家定の後継ぎをめぐる幕府内部の対立

② 将軍継嗣問題

	将軍候補	支持する大名	条約締結に
【南紀派】	徳川 ^{よしとみ} 慶福 (紀伊藩主)	井伊直弼 (彦根藩主) 譜代大名中心	賛成 (開国)
VS			
【一橋派】	徳川慶喜 (一橋家)	松平慶永、島津斉彬 徳川斉昭 親藩・外様大名中心	反対 (攘夷)

1858 年 井伊直弼、大老に就任

→ 徳川慶福を将軍継嗣に決定 ～ 14 代将軍^{いえもち}徳川家茂

政局の転換② — 井伊直弼の独裁

B 安政の大獄

① 井伊直弼による独裁、一橋派の処罰

② 安政の大獄（1858 年～1859 年）

… 井伊直弼の専制に反対する大名や攘夷派の政治弾圧

〔処刑〕 吉田松陰（長州藩士、松下村塾で教える）、橋本左内（越前藩士）

梅田^{うんぴん}雲浜（若狭小浜藩士）、^{らい み き さぶろう}頼三樹三郎（頼山陽の子） など

③ 桜田門外の変（1860 年）

水戸脱藩士ら 18 名が、江戸城桜田門へ登城中の井伊直弼を暗殺

⇒ 幕府の権威失墜



公武合体と尊攘運動① — 安藤信正の公武合体政策

A 公武合体運動の展開

公武合体 … 朝廷（公）と幕府（武）の融和をはかり政局安定を目指す

① 老中**安藤信正**の公武合体政策

1862 年 かずのみやこうか
和宮降嫁 ／ 孝明天皇の妹**和宮**を徳川家茂の妻に迎える
△ 和宮はすでにありすがわのみやたるひとしんのう**有栖川宮熾仁親王**と婚約

坂下門外の変 ／ 尊攘派志士 6 名が安藤信正を襲撃

→ 安藤信正、失脚

公武合体と尊攘運動② — 薩摩藩の公武合体政策（文久の改革）

② 薩摩藩の公武合体政策

1862 年 島津久光（斉彬の弟）、1000 名の兵を率いて上洛 ～ 幕政改革の勅命

→ 勅使（^{しげとみ}大原重徳）を奉じて江戸へ ⇒ 幕政改革要求 文久の改革

松平慶永 / 政事総裁職 : 大老に相当

徳川慶喜 / 将軍後見職 : 将軍の補佐

^{かたもり}松平容保（会津藩主） / 京都守護職 : 京都の治安維持

◎ 幕府の浪士組から分裂した新撰組も指揮下に

* 参勤交代の緩和（三年一勤／在府 100 日）、西洋式軍制の採用

公武合体と尊攘運動③ — 長州藩の動き

B 尊王攘夷から恭順へ（1863 年～1864 年）

長州藩の動き … **尊王攘夷運動**の高揚 ～ 急進派の公家^{さねとみ}**三条実美**らと結ぶ
→ 幕府に圧力（攘夷決行命令の発令を幕府に要求）

1863.5.10 幕府、諸藩に決行命令

⇒ **長州藩外国船砲撃事件**：下関海峡通過の外国船砲撃

公武合体と尊攘運動④ — 尊王攘夷から恭順へ

尊王攘夷から恭順へ（長州藩の敗北）

八月十八日の政変（1863）

- **薩摩・会津藩**や朝廷内の公武合体派が
長州藩勢力や尊攘派公家を京都から追放
 - * **三条実美**ら 7 名の公家は長州に逃亡（**七卿落ち**）

池田屋事件（1864）

- **新撰組**の浪士（**近藤勇**ら）が京都三条河原町の池田屋に
集合した尊攘派志士を殺傷

禁門の変 はまぐりごもん (蛤 御門の変／1864)

- 長州藩は池田屋事件の報復と勢力回復のために再び京都へ
→ **長州藩敗北** (藩士**久坂玄瑞**や尊攘派志士**真木和泉**ら自刃)

第一次長州征討 (1864)

- 禁門の変を理由に幕府が長州藩を追撃

英・仏・米・蘭

四国艦隊下関砲撃事件 (1864)

● 下関砲台を攻撃・占領

→ 長州藩敗北（攘夷不可能を認識）⇒ 藩上層部は恭順へ



公武合体と尊攘運動⑤ — 尊攘派志士の挙兵

C 尊攘派志士の挙兵（討幕運動）

× いずれも失敗

天誅組の変 (1863 年)	尊攘派の 吉村虎太郎 らの天誅組が公家の中山忠光を擁して、大和国五条の代官所を襲撃
生野の変 (1863 年)	平野国臣 らが公家の沢宣嘉を擁して、但馬国生野の代官所を襲撃、敗走
天狗党の乱 (1864 年)	水戸藩尊攘派の天狗党（ 藤田小四郎 、 武田耕雲斎 ら）が常陸国筑波山で挙兵し、敗北

公武合体と尊攘運動⑥ — イギリスとフランス

D イギリスとフランス（対日政策で対立）

【 イギリス 】

- **薩英戦争**後、薩摩藩（**西郷隆盛**、**大久保利通**らの革新派）に接近

イギリス駐日公使 : **パークス** → 大名連合政権の樹立を期待

〔通訳〕 **アーネスト＝サトウ**（『一外交官から見た明治維新』）

【 フランス 】

- 幕府を支援、徳川慶喜に幕政改革を進言

フランス駐日公使 : **ロッシュ**

1865 年 条約勅許 → 神戸開港（1867 年）

1866 年 **改税約書**の調印

⇒ 平均 20%（従価税） の輸入税を 5%（従量税） に引き下げ

薩摩藩と長州藩（藩論の変遷まとめ）

A 攘夷から討幕へ

テキストの「藩論の変遷まとめ」を参照

① 薩摩藩

大久保利通、西郷隆盛らが藩論を掌握 → 長州藩を支援

————→ イギリスの接近により藩論を公武合体から討幕へ転回

② 長州藩

尊攘派の失脚 → 保守派の台頭（恭順）

————→ 討幕派（高杉晋作、桂小五郎らの革新派） が主導権

奇兵隊の反乱（1864）

～ 藩論を恭順から **討幕** へ転回

奇兵隊

高杉晋作が豪商・**白石正一郎**の援助を得て組織した長州藩の非正規軍。

それ以後、農民や町人からなる軍隊（遊撃隊など）も組織された（**諸隊**）。

薩長連合と幕府の危機

B 薩長連合（1866 年）

坂本竜馬	土佐藩士。海運、貿易のための結社・ 亀山社中 （のち海援隊）を組織。 薩長連合を斡旋。1867 年、京都の近江屋で暗殺された。
中岡慎太郎	陸援隊を組織し、討幕運動に尽力したが、坂本竜馬とともに京都で暗殺。

坂本竜馬、中岡慎太郎の斡旋で薩摩藩と長州藩の軍事同盟成立（**薩長連合**）

【 薩摩藩 】 **西郷隆盛**

【 長州藩 】 **桂小五郎**（木戸孝允）

C 幕府の危機と社会不安

① **第二次長州征討** (1866 年)

幕府の長州再征 → 薩摩藩の長州藩援助によって**幕府軍敗退**

② 世直し一揆、打ちこわしの頻発

③ 幕府の危機

1866 年 徳川家茂没 → 第二次長州征討の中止

徳川慶喜、15 代将軍に就任 ～ **慶応の改革**

孝明天皇の急死 → **明治天皇**の即位

1867 年 **ええじゃないか**の乱舞

… 東海道、近畿、四国地方に広がった民衆の狂乱



幕府の滅亡① — 討幕派と公武合体派の対立

討幕派と公武合体派 ～ 大政奉還

- 【 武力討幕派 】 薩摩藩、長州藩、公家（^{ともみ}岩倉具視ら）
- 【 公武合体派 】 土佐藩（坂本竜馬）

＊ 坂本竜馬の「**船中八策**」～ 公議政体論

朝廷中心の大名会議（**徳川主導、将軍を議長**）が権力を持つ統一国家

→ **後藤象二郎** → ^{とよしげ}**山内豊信**（前土佐藩主） ⇒ 徳川慶喜に建白

① **大政奉還**（1867年10月14日）

将軍徳川慶喜が政権を朝廷に返上



② **討幕の密勅**（1867年10月14日）

薩摩藩、長州藩は朝廷内の岩倉具視と結んで武力討幕の命令を受ける

幕府の滅亡② — 王政復古の大号令

③ 王政復古の大号令（1867年12月9日）

天皇中心の新政府樹立（明治新政府／徳川氏を除く）

- 幕府、摂政、関白の廃止（江戸幕府の滅亡）

- 三職の設置（総裁・^{ぎじょう}議定・参与）

総裁 有栖川宮熾仁親王

参与 大久保利通、西郷隆盛、後藤象二郎、福岡孝弟、木戸孝允、広沢真臣

→ 1867年12月9日夜 三職による小御所会議

～ 徳川慶喜の辞官納地（内大臣の辞退と領地の一部返上）を決定

→ 旧幕府軍を刺激、徳川慶喜は大坂城に引き上げ、新政府と対立（戊辰戦争へ）